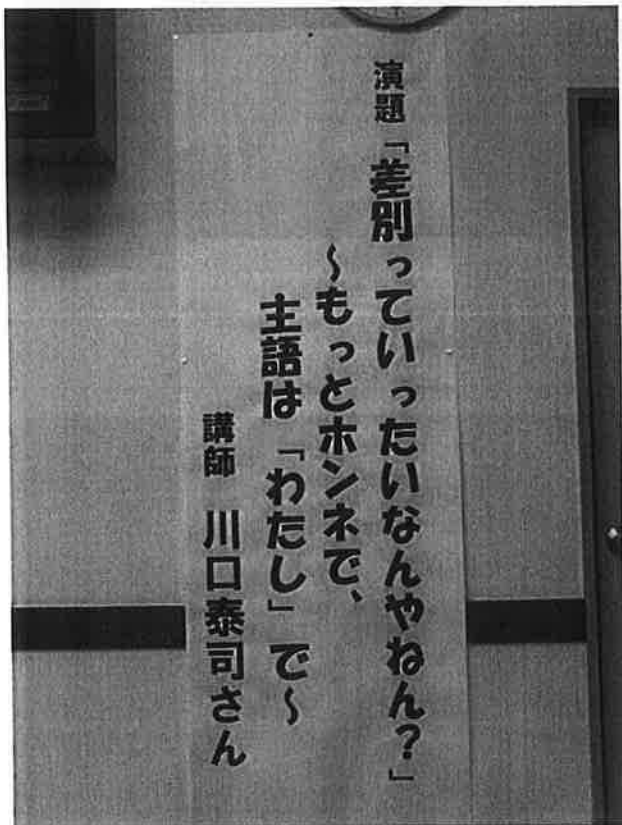


講演会・全体会午前の部



司会者 ただ今より、講演会ならびに全体会午前の部を行います。午前の部の司会を担当します、大麻中学校3年のa、上板中学校3年のbです。よろしくお願ひします。それでは、早速講演会に移りたいと思ひます。演題は、『「差別っていったいなんやねん？」～もっとホンネで、主語は「わたし」で～』です。川口泰司さん、どうぞよろしくお願ひします。



演題 『「差別っていったいなんやねん？」～もっとホンネで、主語は「わたし」で～』

みなさん、おはようございます。今、紹介がありました川口です。今日は、徳島の中学生集会に来れることをすごく嬉しく思っています。ていうのも、徳島は、みんなの先輩たち、今日引率してきてくれた先生とか、青年のお兄ちゃんたちとね、実はもう10年以上前くらいから付き合いがあります。全国の高校生の集会っていうのがあるんよ。そこで出会ってからのつながり。そして今日も参加してるけどね、その先輩たちが後輩たちにしっかり関わったり、そのとき関わった先生たちが一生懸命教えてる生徒が来るっていうことやけん、すごい楽しみにやってきました。

オレ自身、部落出身でこれまで生きてきた。今のみんなみたいに、中学校の時から一生懸命に活動してきたんよ。それで、正直社会人になって、いっぱい頭打ったことがありました。それは例えば結婚の時ね。結婚の時に、仲間が結婚差別受けるときもあるんやけど、オレ自身ね、大学時代に恋愛でも差別受けたし、今の結婚の時でもいっぱいもめたんよ。今日は、そんな自分自身の話をしながら、今活動してるみんなにとってね、何を大事に、仲間とつながらなアカンのか、何を語っていかなアカンのか、そんなことを一緒に考えていけるようなね、そんな講演にしていきたいなと思ひますので、今日はよろしくお願ひします。一応ね、しゃべりたいことがいっぱいあるから、最後30分、全体討議あるけどもね、それオーバーするぐらいしゃべるかもしれんけども、なるべく時間短く頑張りますので、よろしくお願ひします。

じゃあ、簡単に自己紹介しておきます。オレの生まれはね、みんなと同じ、この四国のね、愛媛県の宇和島市とって、知ってる？ JRの終点ね。そこの人口7万人ぐらいの町。そこの被差別部落、同和地区で生まれたんよ。正確に言うると、オレの生まれたのは被差別部落じゃな

くて、産婦人科で生まれたんやん。ここ笑うとこね。小学校、中学校、高校とな、愛媛の部落で育って、大学でね、大阪に行くんよ。

学生時代4年間、部落解放研究会っていう人権サークルでいろいろな活動しながら、卒業した後も4年間、大阪の同和地区に住んで、みんなみたいな学習会、子ども会の指導員やってたん。4年前に結婚して、山口県の方に行って、今は山口の方で活動させてもらっています。だからオレはね、四国の田舎の小さな部落、そして大阪の大きな部落、そして山口県に行ってるから、すごいあちこち行かせてもらって、いい経験させてもらっています。



オレがね、自分が部落出身という立場を知ったのは、小学校6年生のときやったんや。その前に、自分の小学校6年生のときの話をしとかなあかんのやけど、オレね、今でこそこう見えて、すごくさわやかな好青年やんか。ここ、うなずくところね。でもな、小学校、中学校時代っていったら、今から全然想像できんぐらい、メチャメチャやんちゃやったんよ。特に小学校時代っていうのはね、もう荒れまくったね。とにかく学校が嫌い。教師が嫌い。大人が信用できん。まあ反発、反発の毎日やったんよ。そんな自分が中学校入ってな、本気で部落差別なくそうっていう先生に出会うんよ。その先生に出会って、いろんな人に出会わせてもらえる。同和教育、解放運動に出会ってな、みんなみたいなこんな仲間と出会っていく。そんな中で、

「自分自身の生活のしんどさ、家のしんどさ、地域のしんどさ、実はこれが部落差別やったんや。」そんなことに気づいていく中で、オレは少しずつ変わっていったんや。ほんで今は、偉そうにみんなの前で講演してるわけや。だからオレにとってね、みんなみたいな、この中学生の活動とか、学校の人権学習って、めちゃくちゃ大事なものであったんよ。

ブラック差別？

自分の立場を知るのは、きっかけがあったんやけど、オレが6年のときに、うちの姉ちゃんも、めちゃめちゃスーパーヤンキーやったわけよ。その姉ちゃんが、友達の親からね、「もううちのお姉ちゃんと付き合うのやめなさい。」と、そういう話をされるの。その後、「ミキちゃんは部落の子や。」とか、「あそこの部落の人はガラが悪い。」とかね、「何か言うたら大ゴトになる。」とか。そういう差別事件があったから、そのことで学校の先生がうちに家庭訪問に来たわけや。その話をこっそり聞きながら、自分が部落って分かっていくわけや。正直ね、自分が部落出身という立場を知ったときにどんな気持ちやったかっていうと、ぶっちゃけ言うとな、「めっちゃショック。もうこんなの、絶対誰にもよう言えん。もう最悪。どうしようー！」ってわけじゃなかったんよ。正直言うとな、あんまりピンとこなかったんや。多分みんな、こん中にも、部落の子、部落外の子が来てると思うんやけども、部落の子でな、立場自覚してる子おると思うんやけど、みんなと同じ感覚。正直オレそういう差別される地域に生まれたっていつてもさ、別に今まで友達からね、差別されたこともないし、さっきのOさんの話じゃないけどね。面と向かって、お前部落やなって言われてない。友達のとこに行ってもさ、さっきの(意見発表者の)お母ちゃんみたいにね、「あんた、部落の子やけん遊んだらあかん。」みたいなことも言われたことない。だから正直さ、「もう、自分の周りには部落差別なんか

いん違うん。」みたいな感じやったから、あまりピンとこんかったんよ。

ただ、あんまりピンとこんけどさ、自分が部落出身ということがな、イメージとして、プラスのイメージかマイナスのイメージかいうたらよ、どう？部落の子。めっちゃプラスっていうわけでもないんよな。めっちゃマイナスってわけでもなくて、プラスかマイナスか言うたらさ、小さなマイナスって感じ。「なんか人には言われへんな。」みたいな。かといつて、「部落やけて悩んでるわけじゃない。」みたいな。そんな感じやったわけよ。そんな自分がな、中学校3年生のとき、「何だ！別に自分が部落出身てことは、そんな恥ずかしいことじゃない。もっと堂々と胸張って生きとったらいやないか。」って、そういうふうに見えるきっかけがあったの。それが、この中学生集会やん。

オレも輝きたい！

ちょうどどちらの地域では毎週学習会、まあ解放子ども会って言うてたんやけど、そのメンバーが学習してたわけ。そのメンバーでね、ちょうどこの中3の夏休み、この時期。福岡でね、同じように福岡県の部落の仲間たちが集まって、部落差別をなくそうっていう中学生集会があったんよ。そこ行って勉強せえへんかって、誘われて行ったわけよ。正直オレらはね、まあ行くときは、部落の勉強って言うけんさ、半分だるいなと思いつつながら、でも遊びでな、スペースワールドっていう遊園地があったわけよ。そこも連れて行ったるって言われてさ、半分だまされながら行ったわけや。遊び半分で。最初こういう風に会場入ったらさ、正直人権の集会っていうけんさ、生徒会の真面目な子たちみたいなのがいっぱい来てるんかなと思いつたわけよ。かたい集会かなって思いつたわけ。

会場入ってビックリね。会場入ったらさ、茶髪でピアスあけてる金髪の兄ちゃんとかさ、普通にその辺で煙草吸ってる兄ちゃんとかおるわけよ。中学生で。ボンタンはいてな。「えっ？！

こんな不良たちが、いっぱいこんな真面目な集会に来てるの？」みたいな。ビックリやん。この人権の集会、こんなやつがホンマに勉強するんかなって思いつたわけよ。集会が始まるやろ。ほしたら、その茶髪でピアスのヤンキーの兄ちゃん姉ちゃん、めっちゃ派手な女の子たち、この子たちが一番語るわけ。自分の親の離婚のこと。差別のこと。仲間のこと。涙流して自分語っていくわけよ。

オレな、そいつらの姿見ながら、ガツン、ガツンくるわけな。多分みんなも後から全体討議、グループ討議で話すると思うけど、同じ中学生の仲間が、自分らのことや仲間のこと、差別のことを熱く語ってるんや。オレ、まずカルチャーショックや。「こいつらスゲー。」って。その後、一番頭打ったのが、みんながグループで発表していくんやけど、最後の方のグループ。300人ぐらいおったんよな、その福岡の会場な。もう体育館いっぱい。やっぱ、発言する子もドキドキして緊張してるわけよ。

ある子が、震える手でマイク握ってね、こう語り始めたわけ。「ぼ、く、は、」って。そう、その子は言語障害持った子やったの。「自分は障害持って生まれてきた。小学校時代にいろんなじめを受けてきた。自分も地域のみなどと一緒の学校に通いたい。」って、学校に通い始めた。最初の頃は良かった。でも、時間経つに連れて、友達が、例えば自分のしゃべり方がちょっと変やからっていつて、そのことを真似て小馬鹿にする。

そのうち授業が始まっていくと、やっぱりその子は、同じように当てられても、答えるのに時間がかかる。それが、そのうち積もり積もってくると、周りの友達に、「こいつがおるけん授業が遅れるんや。もう隣のクラスはここまで進んだのに。」って陰口叩かれていつた。自分のことを笑い者にしていく。真似されて。そのうち靴を隠されたりとか、いろんなじめを受けてきた。

その度に、自分はいじめたヤツ、差別してる

その友達を恨むことじゃなく、自分のお母ちゃんを恨んだっていうのよ。「何でオカンはおレをこんな体に生んだんや」って。「そのせいでおレはこうやっていじめられるんや」って。ホントはその怒りを友達にぶつけないかんかったのに、おレは母ちゃんにぶつけどったって。母ちゃんは何も言わんとね、ただおレを抱きしめて、「ゴメンね、ゴメンね。」って。そう言われるたびにボクは、そのことが母ちゃんをどんだけ傷つけてるかもよく分かってたって。そうやって学校行きたくない日が何回もあったんや。でもな、その度に、こいつらが、助けてくれたんや。それが子ども会の仲間や。「お前、何言ってんねん。何やってんねん。」って、朝学校迎えに来てくれて、「学校、一緒に行きな。負けたらアカンで。」って支えてくれたって。

おレは障害持って生まれた。そして部落に生まれた。おレは二重の差別受けるんや。正直、今は部落差別のことはあんまり分からん。障害のことで頭いっぱいや。ほなけど将来やっぱり結婚のことになったら、おレ部落ってことで、またハンディ負うって。おレはね、そんな差別に負けてしまいそうなんや。ただでさえ障害者差別でいっぱい。そこに部落差別もきたら負けてしまいそうや。でも、おレ負けたくないんや。そんな差別、なくしていきたいんや。語っている彼の顔は、もう涙と鼻水でグチャグチャや。ホンマに一言一言聞き取るのが精一杯やった。もう逃げへんて。差別と闘っていくんや。みんなの前で立場宣言していったん。おレ逃げへんて。おレな、そいつの姿見たときに、またガツーンやられたわけ。そいつのそばに、その茶髪で金髪の兄ちゃんがおるわけや。そいつも語るわけよ。でな、「スゲエ。」って。

おレだっているいろいろと家がしんどかったよ。いろんなこともあった。父ちゃん、母ちゃんグチャグチャやった。それでちょっと勉強しんどいとか学校しんどいとか逃げとった。でもそい

つらな、その厳しい差別の中、自分の生いたちの中な、そのしんどいことから逃げんと頑張っていくねん。そこに仲間もおんねやんか。そういう、福岡での中学生集会。

格好いいって。語ってるそいつらの顔は、もう涙と鼻水でグチャグチャや。でもそいつらの顔、めっちゃ輝いとったんや。キラキラ輝いとってん。おレも、こいつらみたいに輝きたいって。それが、中学校3年生のとき。部落で生まれたことを、何か嫌やなって思いよったけども、福岡の中学生集会に行って、ちょっと吹っ切れたんや。

胸はっていきんしゃい！

そして、その日の夜、ホテル泊まるお金がなかったから、そんな時は地元の隣保館でいって、こういう人権センターな、そこに泊めてもらうわけや。そこで地元の識字学級とってね、みんな勉強した？小さい頃、部落のおじいちゃんおばあちゃん、特に女性が多いんやけど、差別によって家が貧乏やったわけ。だけん、小学校も低学年の頃からな、もう学校行かんで家の手伝いせなあかん、子守り奉公行かなあかん、そうやって満足に学校を卒業してない人おるわけや。その部落のばあちゃんたちがね、文字の勉強してる。そんな識字学級のばあちゃんたちと、交流会をしたわけ。ばあちゃんたち、元気やったんよ。最初は自己紹介でな、ワイワイ言って盛りあがったわけ。ひととおりワイワイ言って自己紹介終わって、意見交換になったとき、その識字学級で一番年輩の、80過ぎのばあちゃん、このばあちゃんが一発目に手を挙げて、おレにこういうわけ。

「川口くん、さっきからアンタの話聞きよったけど、自分が部落に生まれたっていうこと、恥じとりやせんかい？」

「恥ずかしいと思っないか？」って。ドキッとしたわけよ。さっきも言ったけど、自分が部落ってことはさ、一日24時間365日な、「おレは部落出身者や。いつ差別されるんかな。

どうしよう、どうしよう。」とかってさ、そんなに悩んでくるわけじゃないんよ。普段全然意識してないから。場面場面で意識して、ちょっとマイナスって感じ。

例えばオレが中学生の時だったら、どういうときに自分が部落って意識したかっていうとな、今日みたいな人権学習の時やんか。仲のいい友達が休み時間、「おい、次の授業、何？同和教育。また同和の話か。もうおもんねえわ。だるいわ。」ってね、寝てるやつおるやんか。しゃべってるやつがおるやんか。めっちゃ気になるんよね。ああ、この仲のいい友達、真面目に考えとらんと。オレがここで部落って言ったらさ、「その授業だるいな、おもんねえな」みたいな目で見られるんかと思うと、ちょっとマイナスな。分かる？年ごろになってさ、好きな子できるやんか。その付き合ってる彼女にな、「自分が部落っていつ言おうか」って。「最初に言うところか、いや言わんほうがいいんやろうか」とか。そういったな、場面場面で意識してちょっとマイナス。でも普段悩んでるわけじゃないわけよ。でもな、話しよったら、ばあちゃんに見抜かれとるんよ。「川口くん、そうやってチャラチャラ話ししよるけどな、自分が部落に生まれたっていうこと、恥とりやせんかい。」って。ドキッとしたわけ。次の一言よ。



「何が恥ずかしいことがあるんよ。差別はするもんがおるけん、される者がおるだけぞ。部落があるけん差別があるん違う。あれは同和やワシらとは違うって、人を差別でもせんと生きて

いけれん、自分に自信のない、みにくい生き方しよるやつがおるけん、うちら差別されとるだけぞ。なんちゃ下向くことない。胸張って生きんしゃい。」

たったこの一言。オレな、頭ガツーンとハンマーで殴られた衝撃やったの。それまでさんざん学校とか学習会でな、みんなみたいに人権の講演会聞いたり、映画観たりしとったんぞ。でも、自分が部落出身ていうな、何か小さなマイナス、それを砕くもんじゃなかった。でもな、80過ぎたそのばあちゃんの一言やってん。何かね、言葉の重さが全然違うかった。その一言にな、ばあちゃんが生きてきた80年の生き様、ドシーッと乗ってきてん。実はな、その後にはばあちゃんたちがな、自分たちの生き立ちを語ってくれたんよ。そりゃ壮絶な苦労話やった。ばあちゃん、あんたよくその差別と貧乏のなか生きてきたねっていう苦労話。でもな、その苦労話語るときに、思い出して涙こそ流すんやけど、誰一人、誰一人なんよ。暗い顔してさ、悲壮感漂わしてな、その話を語らん。たくましいのよ、ばあちゃん。こんなの苦労なんて思うとらんわけ。

「やっちゃん、ばあちゃんな、識字学級行って勉強したのは、文字だけやなかったんや。」って。「部落の歴史。差別の仕組み。なんでワシら小さい頃から、こんだけ働いて、働いて、働いて。苦労して、苦労して、苦労して。それでもね、一つも金が入ってこんかった。なんでうちの部落の男衆、仕事も行かんと、昼間っから酒飲んでバクチやって、甲斐性のないヤツらや。こんなヤクザみたいなヤツがおるけん、そんな目で見られるんや。」て。ばあちゃんね、それまで解放運動に出会うまでは、自分らの部落が差別をされるのは、自分らの部落にも原因があると思ひよったって。

「こんなガラ悪いヤツがおるけん、そんな目で見られるんや。うちは学校行つとらん。家が貧乏やけん、こうやってバカにされるんや。」て。じゃけん、ばあちゃんは、人から差別されんた

めにどうやって生きてきたか。部落の人間でも、「自分さえしっかりしとったら、もう人から差別されん」て。これ多いんよな、部落の人で。その一心だったわけ。「だから、なんぼ貧乏やっても、人から後ろ指さされるような生き方は絶対せんかった。自分、小さい頃、学校行けんでな、苦労したけんこそ、一生懸命子どもには教育つけた。大学まで行った。もうこれで部落の人間でバカにされん、差別されん、見返しちやる。」って必死で来たんと。

でもな、違うかった。当時成績抜群の我が息子。どの大手の会社を受けても、一次試験のペーパーテストは全部通るわけ。賢いから。でも、最終段階で全部落ちて帰ってくるんよ。自分より成績が下の子が通るわけ。普通に。自分はなんぼ優秀でも全部落ちて帰ってくるんと。就職差別受けて帰ってくる。みんな勉強した？部落地名総鑑事件て。これまた数年前に発覚したんよ。全国の被差別部落の一覧リスト。これ一冊の本になっとるんよ。これを、大手の企業が持ってるわけ。昔、部落の子どもたちは家が貧乏やったんよ。大学まで行きたくても家が貧乏で行けれんかったわ。でもな、みんなの先輩たちが部落解放運動の中で、部落の子どもたちに、「家が貧乏でも高校行けるようにせえ、大学行けるようにせえ。」って、そのための奨学金を勝ち取ったわけ。じゃあこれまで部落の子たちでも、賢い子、大学行きたくても金なかった子たちが、その奨学金を手にして、ばんばん高校進学するわけや。それがちょうどオレらの親父世代。今の40代、50代よな。みんなの父ちゃん母ちゃんのちょっと上ぐらいや。

ばんばんいい会社も受けに行くからどうなっていくかという、これまで大企業のみみたいなところに、こんな部落のもんは来んかったんよ。それがばんばん入りだした。で、困ったわけ。企業は部落の人を雇いたくないから。そこで、何したかという、企業が採用調査するわけ。最終段階に残った子たちの履歴書を渡すんよ。興信所、探偵社に、調べてって。部落かどうか

とか調べるわけ。それでも手間ひまかかりよったけん、賢い興信所が、「これ一冊の本にしたら売れるん違うか。」って本作ったんよ。それで売ったわけ。まあオレらが知ってるような大きな会社はほとんど買っとったよ。

それで何したかという、今は違うぞ、ちょっと20年前、30年前だったら、就職試験受けるときにね、名前書いたり住所書くやんか。あそこに本籍地っていうの書いとったんよ。本籍。企業は全国の部落の一覧リストが手元にあるやろ。本籍地を書かせとるけん、こうやって見たら分かるやん。照らし合わせて。「あっ、こいつ部落や。」って。いちいち探偵に頼まんでも分かるわけよ。こういう事件が続発するの。

部落の中で大学行ける子って、エリートぞ。その子すら落ちて帰ってくるわけ。地元に戻ったらもっと仕事ない。部落って分かるだけで雇ってくれんのやから。じゃから、なんぼ学力を手にしても、部落の一言で終わって帰ってきた。今度は、結婚差別受けて帰ってきたって。

「やっちゃん、部落の人間でも、自分さえしっかりしとったらぞ、大学まで行って家住んどったら差別されん思うとったで。でもどうにもならんかった。差別は、される側の問題じゃない。する側に100%問題がある。そんな差別に振り回されて生きることない。胸張って生きんしゃい。」

差別はする側に100%問題がある

そんなばあちゃんの一言。いい？ここすごく大事やから聞いとってね。差別はされる側に理由、原因はないって。する側に100%問題がある。でもね、これ分かってない人多いよ。「そうは言うけど、差別されとる人らにも問題があるん違うん。」という論理がある。「あんなことしよるけん差別されるん違うん。」て。これもうちちょっと分かりやすく言おう。

これ、大人の社会では差別って言うわけや。部落差別、民族差別、障害者差別とかってね。みんなの中学校、子どもたちの社会ではこれ、

何て言うん。いじめって言うん。いじめ。大人社会の差別と子ども社会のいじめ、よく見とってみ。起こってる歴史的な背景とかは違うけど、起こってる現象とか仕組み、全く一緒やから。みんなが小学校、中学校の時にしっかりいじめに対して正しい物の見方、考え方、立ち位置、スタンスを確認して大人になるわけ。それが自分が大人になっていろんな差別に出会ったときの立ち位置になるわけ。これ全く一緒。逆に言うと、みんなみたいに人権学習に一生懸命やってな、いじめに対して正しい物の見方しっかり持っとったら、部落差別のこともすぐ分かる。これ一緒。



オレ、今、全国の中学生、高校生に講演に行きよるんよ。この中でもさ、ボクの講演を一度、二度、聞いた子もおると思うねんけど、だいたいね、一つの学校で講演が終わるやんか。終わったら平均3人ペース、生徒から相談がある。オレ、レジメにアドレス入れてるんよ。子どもらは携帯で匿名で送ってくるわけや。感想で、「今日の講演、良かったですよ。」っていうのもあんねんけど、いじめの相談が結構多いわけ。「実は川口さん、うちもいじめ受けとって。」って。カウンセリング的に、いじめの話がボクが聞くだけでその子が癒されていくケースと、「これは深刻や、もう整理に入らなあかん。」というケースがあるの。そんなときは担当の先生と本人に了解とって、一緒に整理に入るわけよ。いじめの相談受けてさ、現場に整理に入ったときに、そのときの保護者とか先生の指導を見と

ったらさ、「先生、ちょっとその指導アウトでしょ。」っていうのが結構あるのよ。どういった指導かっていうと、いじめてるこの子らもあかんけど、いじめられてるこの子にも原因があったみたいなの指導しとるの。みんなどう思う？いじめってさ、いじめてる子らもあかんけどさ、いじめられてる子にも原因あるかな？「あの子、あんなんしよるけん無視されるん違うん。なんぼ言うても聞けへんし。」みたいな。どう思う？考えてな。具体的に言うとね、先生がいじめてるグループの子ら呼んで話聞くの。

「なんであんたら〇〇ちゃんのことをみんなが無視しとんの。」

「先生、聞いて、あの子ね、この間うちらにこんなことしてきたんよ。何回言うても聞いてくれんよ。ほなけんみんなが無視しとる。シカトしとる。この子が問題なんよ。」

そのとき先生が「確かに〇〇ちゃん、アンタも普段の生活見よったらさ、キツイこと言うたりなんかしとる。もうそういうことしよるけんみんなに嫌われるんで。アンタにも原因があったんよ。でも〇〇ちゃん、アンタもいじめたらあかん。はい、お互い謝って仲直りー。」って。これアウトやからな。もしこういう指導された子おったら、これ間違いやから。一対一の対等な力関係やったら、それがケンカやったらな、両成敗って言うよ。でもいじめってね、両成敗ありえへん。卑怯もんやから、これ。圧倒的多数と一人やから。少数派やから。絶対的に強い者と弱い者。

最近、ネット上のいじめが多いんやけど、書き込むヤツはみんな匿名。実名でその子にネット上で差別落書きとか、書くヤツほとんどおらんよ。みんな匿名よ。この間、島根県のケースはね、その子の写メ入り。顔写真の写メ撮って、アップされて、みんなが悪口をかきこむ。一発で学校いけなくなったよ。ヒドイよ。何にもないんよ、原因なんか。誰が書いとるか分からのよ。でも、どう見ても身内なわけや。両成敗ってあり得へんて。卑怯もんやから。

差別の自己正当化

オレ、おったら聞くの。「お前ら何でこいつらいじめとん。」て。「川口さん聞いて。あの子、あんなんよ、こんなんよ、じゃけん。」とかって言う。「ちょっと待て。」って。「この子が、すぐ嘘ついたり悪口言うたり、いらんことしよるお前な、それはそれで問題ぞ。」って、これはハッキリ指導する。人として問題や。「そのままお前が大人になったら、それはお前が苦労するぞ。」って。「それ絶対、友達関係をきれいに直さなあかん。お前の性格の問題ぞ。」って指導するわけ。いい？ここからよ。それは、この友達自身が直すべき、いろんな間違つとる性格の問題ではあるけども、そのことを理由に、お前らが無視したり殴ったりいじめたりしていってという理由にはならんぞって。

この子の間違つとるいろんな性格の問題と、だからといってそのことを理由にいじめてもいい、差別されても仕方がないっていうのは、それは、議論するステージが違うって。これ切り離して考えろよ。この子の悪い性格直したげるなら、いじめや無視とか差別という手法を使わずに、非暴力で議論せえ。友達として高め合うために。

今日ここにおる中で、どんな性格の子だって、いじめられてもイイ子は一人もおらんからな。どんな理由があっても、こん中で差別されても仕方がない人間は一人もおらんぞ。だから、人権のことを生まれ持った権利っていうの。いい？

これな、現象は一緒に見えるよね。「でもあの子キツイこと言うけん、いつも浮くん違うん。」みたいな、現象は一緒よ。でもな、これ、1%でも、ちょっとでも、「無視されているあの子にも問題がある。」とか、「差別されているこの人らに問題がある。あんなんしよるけん差別されるんや。」って思った瞬間から、差別する側がされる側に理由、原因を全部持っていくから。された子も、「うちがこんなんやけんや

られるんか。うちがこんなんやけん原因やったんか。」って下向かされる。これをね、差別の自己正当化っていうの。差別の自己正当化。人間誰しも人を差別してると思いたくないわけ。理由がほしいの。何でもいいの。

じゃあ、基本的にいじめられてる子、その子に原因があるんじゃないのに、何でいじめがあると思う？何で差別があると思う？自分が誰かの悪口を言ったり、いじめたり、暴力振るったりしたことある子、思い出してみ。どういうときにやってるか。自分が期末テスト100点とって、めっちゃ頑張って、すげえ100点やったって、親も喜んでくれて、「お前頑張ったやないか、ほんならあの欲しかった『嵐』のCD買ってやるぞ。」ってね。「ヤッター！欲しかった限定ものやー！」ってね。もう幸せ絶好調の時やぞ、いいか。幸せ絶好調、もううち相当ハッピーみたいな時に、誰かの悪口言う？誰か周りの人、ねたましく思う？思わんよな。ほうやる？

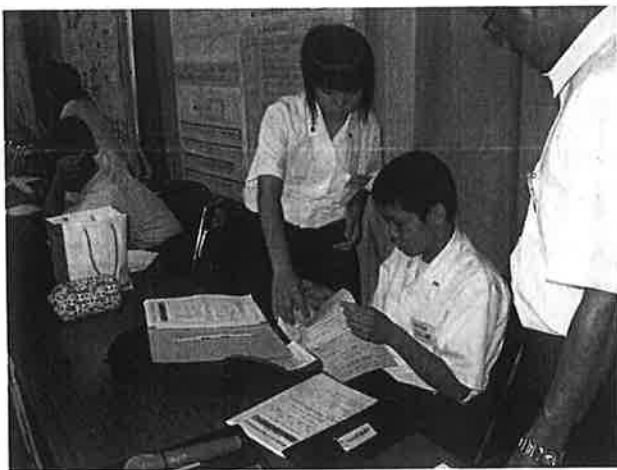
去年、いじめ問題に関わったケースね、そのすべてって言っていい。いじめられている子たちよりも、いじめてる子たちの方が、学校で置かれてるクラスの人間関係、家庭環境、家の状況、しんどい子やったわ。もう誰かの悪口言ったり、ターゲット作って、無視したりしとかんと生きていけれんぐらい、その子らの人間関係、ものすごい複雑やった。薄っぺらかった。

ある女子のグループ。仲良し5人グループ。みんな仲いいんよ。ニコニコして。全部愛想笑いやから。このグループから浮かんように付いてかなあかん。もうストレスいっぱいって。ムシャクシャして吐き出したかったん。そんな時、「あの子ムカつくね。」ってターゲット作って、自分の中にあつたドロドロしたもの投げよつたん。エイヤーって。この行為を悪口って言うんよ。この行為を無視って言うの。この行為を差別って言うの。この行為を暴力って言うの。そのとき理由つけるんよ。「この子こんなんやから、あんなんやから。」って。こうやって自分

のやってること正当化するの。これが差別の仕組み。

外に吐き出せる子は誰かを傷つけるんよ。外に吐き出せん子はどうするん。自分を傷つけるんよ。自傷行為や。リストカットや。リスカ。多分こんだけおったら何人もやってんで。リスカって。もう中学生いっぱいやってるやん。「友達関係トラブった。もうこんな自分大っ嫌い。」って。「どうせ自分なんかいらん子やったんやろ。」って。自分のことを否定して行って、自分の中に溜まったしんどさ、ストレス、夜中一人になって自分傷つけていくんよな。血見た瞬間スーッとすんねんて。でも、今度は切った自分責めるって。「うちまた切ってしもうた、親にもよう言えん。先生にもよう言えん。どうしたらいいんやろ。」って。ホントに多くの子が悩んでるよ。

もしみんな、リスカしてる友達がおったら、「あんた何で切るん。」て、責めちゃだめぞ。その子は切りたくて切ってるわけじゃないんや。痛みが麻痺してるだけなんや。友達にキツイこと言う子おるやんか。自分のこと傷つける子おるやんか。何でやると思う？痛みが麻痺してんねん。



オレ自身がそうやってん。オレも小学校の時しんどい子やったん。家もグチャグチャしとったわ。父ちゃん母ちゃん夫婦げんか絶えんかったしな。学校行っても勉強でけへんやん。おもしろくないやん。授業で遊びよったらな、やっぱ浮くわ。教師から怒られて。その度に授業止まる。

クラスの友達がね、「またヤッチャんいらんことしたけん、先生キレたやん。機嫌悪うなったやん。こいつがおらんかったらもっと授業進むのにな。」って、言わんけど肌で感じるわ。悪さするたびに、「またアンタか。」って言われる。「じゃあどうせオレなんか、いらん子なんやろ。どうでもいいんやろ。」って。ボロボロの時はね、自分の傷がボロボロの時はね、誰かを傷つけても痛いなんて思わんかった。痛みが麻痺してるから。こん中、いじめを受けた経験してる子、思い出してほしいよね。毎日学校行って、「キモイ、クサイ、死んで。」って、いるのにいないことにされて、無視されてさ、毎回そのことに傷つきよってみ。学校行けれんようになるから。痛みが麻痺するんよ。「どうせうちいらん子なんやろ。どうでもいいんやろ。」そうになったら、自分を傷つけても誰かを傷つけても痛いと思わん。分かる？母ちゃんが自分に暴力振るったり、自分のことをぼろくそ言ったりする母ちゃんな。そんな母ちゃんおるんやったら、みんな考えたってみ。「母ちゃん自身しんどいん違うか。」って。「そのストレスで疲れてるん違うか。」って。

これが、差別の仕組みなんよ。被差別部落、同和地区、たまたまそのことを理由にな、住んでる地域で「オレらは部落よりましや。」とか、部落の人を排除して成り立つところ、つながるところみたいな。いじめと一緒にやん。「あの子無視してうちらでつながるところ。あのグループ入ったら、ワシらまでそんな目で見られるから、やめところ。」っていう構造と一緒にやん。そういう生き方しかできん、つまらん生き方、お前らやめろって。生きとつたらしんどいこといっぱいあるわ。辛いこともあるよ。どうしたらいいん。誰かを傷ついたり、自分を傷つけて生きんために、どうしたらいいん。だから、本音で語れる仲間をつくれって言ってるんやん。そのためにこの会があるんやろ。誰かを傷ついたり自分を傷つけて生きる生き方じゃなくて、そのことを語って仲間とつながって一緒に乗り

越えていける、そういう生き方をせえへんかって。オレはそういう生き方ができ始めたから変わってきた。だけんみんなには、後の分科会でもそうやけど、本音で語りながらさ、仲間とつながってほしい。上辺のつながりなんか、どうでもええねんから。みんなには、友達はこの会でつくらんでいい。仲間をつくってほしいんや。友達っていうのは仲のいい子、気の合う子や。これ友達。仲間っていうのはね、違うよ。一つの目標に向かって一緒に取り組むことを仲間っていうの。

お前らは、反差別、「差別許せへんで。人権のこと考えるで。仲間のこと絶対傷つけへんで。支えるで。」って、そんな仲間になってほしい。じゃったら性格がちょっと違おうと、ちょっとこの子キャラ合わんなという子でも、差別許せへんでいうことでつながれる。お前が悲しい思いしたら駆けつけるよって。そういう会を作りたいの。それが、オレも中学校、高校生の時に経験して、今もその青年たちと、つながってる。今日来てる青年が結婚差別受けたときに、オレも山口からすっ飛んできたもん。オレが困ってたとき、すぐに駆けつけてくれたよ。それは一生のものやからな。毎日連絡なんかせんでもな。そういう仲間をね、一人でも多くつくってほしいと思う。それがね、オレも福岡に行って、中学生集会で学んだこと。もう部落ってことで下向くことちゃうやないかって。そりゃ差別もあるよ。厳しいこともある。でも、それをバネにして生きていけたら、メチャカッコエヤンけって思えてんな。

初めての立場宣言

まあ、そうやってさ、福岡に行ってさ。「部落っていうことも恥じることないやないか。胸張るところ。」って中学校生活、終わろうとしたんや。でな、中学校生活、最後の同和教育の授業があったんよ。テーマは結婚差別。もし将来、自分が好きになった相手、結婚する相手が部落の人だったらどうするっていうテーマ。



部落の人だったら一緒になれないっていうグループと、そんなん気にせん、関係ないっていうグループで、みんなで議論したんよ。でもな、今時の中学生っていいこと言うね。「もうそんなんね、相手が部落とかって、うちそんなん気にせんよ。関係ない。」とかね。「親が反対しても、説得する。それでも無理やったら、最後は駆け落ちする。」とかね。真面目な子が、「駆け落ちは、逃げたことになるよ。やっぱり最後まで説得せんとおかしいよ。」そういう議論ね。オレね、正直そんなクラスメイトの発言聞きながらね、嬉しかったんや。そうやんな。今時の若い子でね、相手が部落とか、もうそんなん気にせんよなって思って嬉しかった。そうやっていい感じで中学校生活最後の、同和教育の授業が終わろうとしたんよ。チャイムが鳴る直前、その授業中、一言も発言せん、ずーっとうつむいとった友達のIちゃん。彼女が最後の最後にそっと手を挙げた。「あつ、Iちゃんや。」と。Iちゃん、席立ってボソッとこう言うんよ。

「うちね、さっきからみんなの意見聞きよったけど、アンタらそんなんキレイ事やろ。本音で言ってんのか。ホンマに部落の人と一緒にになれるんか。うちは、正直本音で言うたら、やっぱ抵抗ある。部落の人はよう一緒になれん。」

「ハーッ？」

「私が好きになった人、そんなん部落と知らんと好きになると思うよ。お付き合いぐらいやったらいい。でも結婚は違うやん。二人だけの間

題やない。私がおの人と一緒になったら、今度は私まで部落の人間や。そんな目で見られる。差別される立場になる。正直悩む。」

言うてるIちゃんは、自分が言うてることが、頭じゃあかんでいうことぐらい分かってるよ。分かってるけどな、誰だつてあるやろ、本音と建て前が。そんな自分が嫌やから、泣きながら言よるんよ、正直に。

「でもね、それは自分で選ぶから引き受けよう。でも生まれてくる子ども。この子もまた部落で差別される。私はいいけど、生まれてくる子どもがかわいそう。私はいいけど、生まれてくる子が、部落の子やけん、かわいそうや。」

どうする？部落の子たち。オレ、カチンときたんや。ほんなら、生まれてきたオレは、もうかわいそうなんかて。そういう見方しかできんIちゃん、お前かわいそうやろと思うてん。気がついたら、バーン席立っつたんや。で言うたんよ。

「Iちゃん、なんでそんなこと言うん。オレ全然理解できへん。」って。

で、正直に言うたよ。

「うちね、小さい頃から、親とかじいちゃんから部落のこと、いろんなこと聞いとつた。部落のものは怖い、ガラ悪い、何かあったら集団で来る。ワシらとは違う。事故したらややこしいことになる。いろいろ優遇されとる。いろんなこと聞いてきた。多分うちが一緒になる言うても、親やじいちゃんは反対するやろ。」

「Iちゃん、Iちゃん部落が怖いとかなんとか言いよるけど、部落行ったことあるんか？」

「行ったことない。」

「部落の人と話したことあるんか。」

「話したことない。ほんなん行ったことない。」

「話したことないのに、何でそんな怖いとかなんとか言い切れるん？」

もうそこまで来たら堪え切れんかったんや。オレ言うたんよ。

「Iちゃん、オレがIちゃんが言う部落の人間よ。オレ怖いか？オレなんか違うんか？Iちゃ

ん、オレだつて、同じ人間の赤い血流れてんねんで。」

バツと引き出しからカッター出して、手に押しやったんよ。切つて赤い血見せてやろうと思うて。

「Iちゃんがもつとる偏見はすぐにとれるとは思わん。でも、オレ自身を見てくれや。オレ自身で判断せえや。」

そこまで言うのでな、当時のオレ精一杯。言い終わったら、もう頭真っ白。全身の力抜けてな、涙ボロボロ出てきて。もうドスン座つて。教室中シーンと沈黙。言ったIちゃんはボロボロ泣きよつたよ。その沈黙を破ってくれたのが、友達のトモくん。トモくんバンッと席立つて、「オレはヤッちゃんが部落やつて知つとつた。」「えっ？」って。トモくん言い終わった後、「実は、私も知つとつた。」

「えっ？」

「実はボクも知つとつた。」「実は私も知つとつた。」「ボクも知つとつた。」「私も知つとつた。」

「知つとつた。」「知つとつた。」

「えーっ？知らんかったのオレだけ？」

周りにはな、みんな知つとつたんよ。40人中10人ぐらいは知つとつたよ。オレ自分で言つてないんよ。部落つて。学校も、うちはね、どこが部落かって教えてないんよ。

「どこで聞いとつたん？」「親や家族から聞いとつた。」って。プラスの情報？マイナスの情報？ほとんどマイナス。知らんかったのオレだけやねん。

100円の情報には100円の情報しか

オレな、今でこそ、こうやってみんなの前で、自分が部落出身つて笑つて話しよるやんか。でもこんなんこうやつて、人前で自分が部落やて話すようになったのは、最近の話やぞ。みんなみみたいな中学生の時にな、自分が部落つて、当時笑つて話されへんて。当時自分が部落出身て、一番言いたかつた。でも、一番言えてなかつたんよ。誰に？一番身近な人に。クラスの友達に。

お前らもそうちゃうか？一番仲のいい友達に、一番言いたいこと言えてないん違うか？よく言われるんよ。この中学生集会とか学習会があるやんか。そのことね、部活の友達に何て言うてきたか。もう3年生は部活ないかもしれんけど、「何で今日部活休むん。」って、オレらの時はこの学習会あるけんて言えなかったんよ。適当に、「ちょっと今日塾があんねん。」てウソ言うとした。でもホントは、その一番親しいやつに分かってほしいわけやん。次の日、「オレ今日、こんな勉強したんやで。」って。今日、友達に何て言うてきた？オレらの時はなかなか言えれなかった。ウソついとった自分がおったわ。

オレ、さっきも言うたやん。今いろんな中学校、高校行って相談受けとるって。オレが受けてるな、相談ダントツ一位って何やと思う？人間関係なんよ。

「川口さんが言うように、本音で話せる友達とかおらん。どうやって、そんな親友とかできるん？」

ホントにな、多くの子が悩んでるわ。オレ言うんよな。「その親友とか、本音で話せる友達って、ある日突然高校行って、クラス替えして出会うわけ違うぞ。」って。「自分から一歩踏み出してつくっていくもんなんぞ。」って。コミュニケーションていうのはね、友達関係の苦手な子、聞いとけよ。コミュニケーションていうのは、自分が100円の情報しか出さんかったら、100円しか返ってきいへん。「初めまして川口です。」「初めましてヤマモトです。」っていう、100円の付き合い。「オレ愛媛県出身。」200円。「うち徳島出身。」200円の付き合い。

当時のオレにとってな、部落出身ていうのは、10万円の情報よ。それを抜きには語れなかったし、分かってほしかったけん出したわけや。みんな分かるやん。「やっちゃん、そんな大事なこと、うちに言うてくれたん。実はうちもあるよ。」私の10万円。今やったら思い返せるって。一人の女の子がね、勇気出してオレに

思い返してくれた。「このクラスから、差別とかなくすいうんやったら、私は、デブっていう言葉、やめてほしい。」

その子ね、ちょっと太ってる子やったんよ。その子自分の体型のことな、ものすごい気にしとったんや。でもオレそんなこと知らなかったから、男子があだ名つけとってね、「おい、デブ何。」とか、「デブ何。」とかって呼びよったわけ。オレも言よったんで。でもオレらの前じゃな、いつもその子言われても笑いよるんよ。「何言ってるの。」って。そのうち、「あのデブ。」って言葉言われるたびに、いつもトイレで泣きよったんよ。何回もダイエットしてみたんよ。そんな気にしとったんで。ビックリしたよ。

その子が発言し終わった後、オレらのクラスで一番やんちゃなやつ、こいつがバーンって立って、「オレもある。」って。

「オレな、小学校の時から、参観日とか運動会とか親子レクリエーションとか、いつも嫌やったんよ。何でって、オレ、父ちゃん母ちゃんおれへんねん。ばあちゃんと住んでんねや。そんなばあちゃんな、一回でいいけんの、参観日來たい來たい言うんよ。でも、『絶対來んなよ』、『絶対來んなよ』って言うとした。ばあちゃん泣きよったわ。でもな、そこまで言うても、ばあちゃん、運動会だけは、毎年必ず応援しに來てくれたんよ。でもオレ絶対振り向かんかったって。何でって、お前らには両親おることにとったろうが。」

「はい。うちもお父さん離婚しておらんよ。みんながお父さんの話するたびに、うちいつも適当に言ってごまかしとった。本当はスゴいしんどかった。」

みんなが本音で語り出したんよ。ほしたらな、それまで教室おるときは、周りの友達見とったらさ、みんな100円の話ばかりや。こいつら幸せそうでいいな。しんどのオレだけやと思うとったの。そんなことなかったぞ。30人おったらな、30人、それぞれの10万円持って教室來とったんよ。隣りにおったんやて。周

りが良く見えるけん、背伸びしとるだけやっただ。お前らもそうちゃうか？みんな同じ制服、カバンで学校来とるけどさ、カバンの中の生活って、みんな違うよ。そいつなりに精一杯の生活をカバンに詰めて学校来てるん違う？ほんまにな、今日一緒に来た仲間、友達に、自分の家のこと、話できてるか？部落の子、自分の友達、大事な人に、自分が部落って言えてるか？自分の父ちゃん、母ちゃんのこともそうや。ホンマに自分にとって大事な10万円の話、まずはしたいと思える関係か。誰にでも言わんでええんぞ。でも仲のいい友達や部活の友達やったらさ、親しくなればなるほど、抜きには語れんやろ。そのことをまず話したいと思えるかよ。話したいと思つたらな、ここって思ったときにな、そのことを話しても、しっかりと聞いてくれる学校か？友達か？違うよな。部落の子にとって一番辛いのが知ってる？部落に対する差別意識じゃないんよ。無関心、無理解なんよな。オレがそうやったわ。高校んとき。部落外の友達に自分のこと言おうと思つたらまずね、「何なん、それ。」って言われるのよ。「何なん、その部落って。今もそんなんあるの。もうないん違うん。」て言われるのよ。だから、まずイチから部落問題、説明せなあかんよ。それが面倒くさいんよな。それを話しきつたうえて、「実はオレもそうなんよ。」って。「オレがこんだけ悩んで、お前と関わるとき、揺れてきたんや。うちの親父もこんな結婚差別受けてきたんや。」て、そのあと言うやん。でもそれまでにな、「もう部落差別やないん違うん。」て言われる前にな、それ説明するのがめっちゃしんどいわけよ。そこまで学習しきってないし。どうせこいつらに言うても分からんやろって思つたら言えへんわ。この場やつたら言うで。みんな一生懸命部落の勉強してるから。でも、学校帰って、部活の友達に言えるかって。あんなんもうないん違うんて言われたら、面倒くせえやん。自分にとって一番の10万円の話する前に、部落問題、説明せなあかんから。せやろ？

障害児学級の子見て、「あいつキモいな。」って一緒になって笑ったり真似しよるときに、自分の弟、実は障害持ってるって言える？言えれんよ。この子ら障害者をばかにしとるのに。そうやって不安にさせてる、日々のオレらがおるから言えれんのぞ。それを差別って言ってるのよ。それを抑圧って言ってるんや。今日来た150人、みんなそれぞれの生い立ちをもつとるわ。家のことやいろんなことあるわ。お前がそのまま安心してな、等身大のまま、10万円のまま、丸ごと出しても受けとめてくれる、その10万円を分かつたうえて付きあっている、そんな人間関係を作っていけへんか。そのためにこの学習してる。

そんなクラスや友達と生きれることを想像してみ。めっちゃ楽しいで。学校変わるで。オレらそこから学校変わってんな。だけん、みんなにもな、そういうクラスをつくってほしい。そういう仲間をつくってほしい。そのためには待つとつたらあかんのよ。自分から1歩踏み出していかな。作っていかな。



差別によって奪われたもの

差別によってオレらが一番奪われたものって何やと思う？部落差別によってオレらが一番奪われたもの。いじめを受けた子はいじめによって一番奪われたもの。女性差別によって一番奪われたものって何やと思う？お金じゃないのよ。地位じゃないのよ。名誉じゃないの。こん

なものなんぼでも取り返せるからな。オレらが差別によって一番奪われたのは、人と人とのあったかい人間関係な、ブチブチブチブチ切られていったんや。ホンマにいじめ1回受けてみて。何もしてないのに、次の日、学校行ったらみんなが無視する。もう信用できんて。あんだけ仲良かった友達が。1回な、セクハラ受けてみ。男みんなが怖いって。男みんながセクハラするわけちゃうぞ。でも、その被害者にとったらみんなが怖いって。1回、結婚差別受けてみ。あんだけ信じとった彼が、最後の最後に手のひら返す。もうあんな思いするんやったら結婚いらんて。そうやってオレらは、差別によって温かい人間関係をブチブチブチブチ切られていったんや。同和教育、解放運動って何やったん。この切られた糸をもう1回結びなおしたんや。学校の先生でもな、オレらのこと本気で考えてくれる人がおるんや。部落外の友達でも、本気になって今日みたいにな、部落差別のこと許せへんて考えてくれる友達おるんや。人って信じていいんかもしれん。そうやってな、もう1回つなぎなおすの。それが今日やってる、オレらの活動のことやんか。

何回も言うけどな、午後からの分科会、待つとったらあかん。その分科会、いいもんになるかどうかは自分らやで。一步勇氣出して語って行って。仲間が返してくれるから。そうやってみんながつながって行ってほしいな。それがね、オレが中学校の最後の時の人権の授業やってんな。

「見える差別」と「見えない差別」

そしてな、今日の演題、「差別っていったい何やねん」。みんなさ、正直言ってこんだけ部落の勉強とか講演会とか聞いてるけど、ぶっちゃけて言って、部落差別と聞いて実感ある？正直オレね、高校1年生の時までぶっちゃけて言って実感なかったのよ。ただ今日みたいな講演聞いたらさ、「あっ、まだ社会には差別ってあるんやな」って思うけど、1週間したら忘れと

るよね。「別にそこまで日常生活で露骨に差別を受けて生活しとるわけじゃないし。」みたいな。多くの市民の人はね、部落差別と聞くと、例えば差別発言とかね、差別落書きとか、結婚差別、就職差別、こういったものをパッとイメージするの。「自分の周りで見えたことない。聞いたことない。だからもうないん違うかー。」って言う。

オレもそうやったんよ。高校1年の時まで。オレね、そういった自分がさ、人から面と向かってする、される、そういう差別をね、「見える差別」って言ってんの。「見える差別」。多くの人は、部落差別と聞くと、パッとこの見えるものをイメージするんよ。特に中学生とかやったら、「自分の周りで見えたことない。聞いたことない。だからもうないん違う。」って思うてるわけよ。その点、障害者差別って分かりやすいよね。車いすの人がおったりしたら、「あっ、この地域にもそういう障害者おるんやな。」って分かるもん。部落差別って、見て分からんやん。今日こんだけおるけど、誰が部落か部落外か分からへんで。見ただけじゃ。そうやろ？だけん見えにくい。

でね、差別ってね、これだけじゃなかったんぞ。実はもう1個あったんぞ。「見えない差別」っていうのが。見ようとしなければ見えないし、見抜く力がないと見えない差別っていうのがあったのよ。みんなには、この「見えない差別」をしっかりと見ぬく力をつけてほしい。この見える差別はね、みんなの父ちゃん母ちゃん、先輩がな、何十年も解放運動、同和教育をやってだいぶなくしてきたわ。今は部落の人に面と向かって、「お前、部落民か。お前エタか。ヨツか。」って言う人はなかなかおらん。ちょっと前までは、「エタにエタって言って何が悪いんぞ。お前ら部落民やろが。」って平気で言われとったよ。「それ、言っちゃまずい。」ぐらいまで持つてきとるよ、今は。今、みんなは、この「見えない差別」をしっかりと見抜く力をつけてほしい。

なぜこんなことを言うか。いいか、聞いてよ。この「見えない差別」はね、差別受けてる本人も、部落の子たちも、学んでないと見抜けてないのよ。自分らが差別をされとって、何が差別か学んでないけん見抜けてないの。だからみんなにはしっかりと見抜く力をつけてほしいのよ。児童虐待受けてる子どもが、もし友達におったら聞いてごらん。その子は虐待と思っ
てないから。中学生と話しよったら、「お前それ虐待で。」「えっ?」「そうなん、これ虐待?」「そうやんか。」て。DV, ドメスティックバイオレンス受けてるお母ちゃんと話しよったんよ。DVと思っ
てないもん。話聞いたら、「お母ちゃん、それDVやで。」って。「そうなん?」って。被害者も、何が差別か学んでないと見抜けてないの。知らない人権は守れんから。だからみんなにしっかりと学習しといてほしいの。



ばあちゃん、オレが読んだらうか?

このことにな、気づかされたのが、オレが高校1年の時。アネキが高校3年生の時。あのスーパーヤンキーのお姉ちゃん、覚えてる?彼女が高校3年生になったらどうなってるか。もっと元気になってるわけよね。相変わらずの宇和島じゅうの有名人の、うちの姉ちゃんがさ、高校3年生の時に、生まれて初めてやぞ、表彰状ってもらったんよ。人権作文のコンクール。自分が受けた部落差別のこと書いたら入選した。もう川口家は大喜び。その中でも一番喜んだのがな、うちのばあちゃんなんよ。

そんなある日よ。夜ね、10時ぐらいかな、家に帰って、「おい、ばあやん、ただいまー」って、ガラガラってばあちゃんの部屋開けた。そしたらばあちゃんね、生まれて初めてアネキがもらった表彰状、コタツの上に広げて、アネキの書いた作文集を、もう涙流して読みよんや。そっとしところと思うたんよね。戸閉めた。

風呂入って30分から1時間後、夜11時頃。「おい、ばあやん、もう寝るぞ、おやすみのー。」って、またガラガラって戸を開けた。ほしたらばあちゃんな、まだアネキの作文、涙流して読みよんや。よっぽど嬉しいんや。そばに寄ってな、「おい、ばあやん、もう寝るぞ、お休み。」って、パツとのぞき込んだ。のぞき込んで2・3秒ばあちゃんの顔見て、ハッとした。普通さ、文字読んでたら、目動くやんか。普通作文読んで20分、30分経ったらページ変わるとる。ばあちゃんの顔のぞき込んでハッとしたわけや。ばあちゃんね、字を読みよるんやなかったんよ。ただ1点だけ、「川口ミキ」っていうアネキの名前だけを、ジーッとね、見つめて何十分も、涙流して喜んどったんや。

その瞬間ね、「ひょっとしてうちのばあちゃんも、字読まれへんのちゃうか。小学校行っていないんちゃうか。」って。「そう言えば…」って思った瞬間、いろんなことがバチバチバチってつながったんや。「そういえばうちのばあちゃん、年賀状とか1枚も書いたことないわ。」ばあちゃん、学校のプリント渡すやんか、いつも読まんじいちゃんに回すんよ、プリント。ばあちゃん、市役所行く時、いつもお父さんがついていくわけ。ばあちゃん、いつも1万円札使うんよ、レジで。320円とな、230円と300円の野菜、買ってみ。1000円あったら足りるぞ。ばあちゃん、レジ行ったら必ずね、計算する前から万札置くんよ。1万円札。おつりの計算ができんのか。貯まった小銭を、また両替しに行くわけぞ。「そういえば…」って思った瞬間、いろんなことがバチバチバチって。「ひょっとしてばあやん、字読まれへ

んのちゃうか。」アネキが初めて表彰された作文ぞ。どんだけ読みたいか。でもばあちゃん、自分が字を読まれへんこと、学校行つたらんこと、オレらに隠しとるわけや。みんな寝た頃な、一人その作文手にしてね、「ミキは何を書いとるんやろか…」って、ジーッと眺めて喜んでった。

そのことに気づいてしもうたよ。その場においてしもうたよ。オレどうするん？みんなやったらどうする？もうやること一つよ。「ばあやん、オレが読んだろか。」って。でもな、その言葉、ノドまできとるんよ。でもこっから先に出んのよ。なんでって、書いてる作文の中身が、部落差別の話やけんよ。川口家では、うちのじいちゃんばあちゃんと部落の話、もうタブー。触れちゃあかんのや。今日みたいに学校で講演会とかあるやろ。オレ興奮して帰って話とかするやん。ばあちゃん目の前にトンカツがあっても、ステーキがあってもやぞ、部落の話題になったとたん、サーツとお茶漬けして部屋出て行くんよ。スーッと。じいちゃん、部落の話になったとたん、ハシ置いてね、煙草すって、聞いてないふりするけん。「どうしよう。部落の話や。」って。もう一つ。ばあちゃん、字が読めんこと、オレらに隠しとんよ。「それ読んじやろか。」って言うたら、ばあちゃんのプライドあるやろ。

もう何も言えんようになってね、「ばあやんお休み。」って。もう戸閉めて部屋帰った。部屋帰ってアネキに言ったんよ。「アネキ、読んだろかっていう一言、言えれんかった。」って。怒られたよ。「あんた、いつも人前で偉そうなことばかり言って、口だけか。あんたにとつての解放運動って、そこで読むことやろうが。」って。そうや。2・3日悩んだんよ。また3日目な、いつものようにな、「おい、ばあやん、もう寝るぞ。おやすみのう。」って、戸を開けた。もうな、寝る前の日課。読まれへん作文な、大事に手にしてジーッと眺めて喜んでったんよ。しばらく、その姿見とったんよ。もう耐え

れん。オレ勇気出してな、ばあちゃんのコタツの横に座ってん。ばあちゃんの手持ってた作文、「もうばあやん貸せって！」って取りあげて、もうストレートに言うたんよ。「ばあやん、ばあやん、字を読まれへんの違うんか？オレ読んだるわ。」って。

いろんな思い込みあげてきてね、もう涙が出て、読む声、棒読みだってん。これ、ばあやん、どんな思いで聞つきよんやろって。途中チラッとばあやん見たらな、もうばあちゃん動揺してな、オレに背中向けて、キョロキョロキョロキョロ泣いて、聞いてないふりするんよ。それでも苦勞をいっぱい背負ったばあちゃんの背中に、ぶつけるように読んだぞ。たった2枚、3枚の作文用紙ぞ。1時間かかったんよ。全部読み終えて、2人泣きながら、オレ聞いたんよ。

「ばあやん、ばあやんは差別受けたことないんか。」って。何て言うたと思う？ばあちゃんの時代の方が差別厳しいはずぞ。ばあちゃんなんと言うたと思う？

「ばあちゃん、差別なんて会ったことない。会ったことない。そんなの大昔の話よ。」

「ウソ言えばあやん。オレ聞いたで。」

「誰がそんなこと言よった。」

なんぼ聞いてもな、かたくなにぞ、「部落差別なんか受けたことない。」って、泣きながらそう言うの。「ああ、孫には語れんぐらい、うちのばあちゃんも、いろんな思いしとったんかな。」って思ったわけよ。

差別っていったいなんやねん？

この話で考えてほしいんよ。オレはそれまで自分の身の回りにはもう部落差別とかないうて思いよったやろ。そんときの部落差別っていうのは、自分が人から面と向かってする、される、こういった差別行為のイメージね。この差別行為はね、みんな、部落差別っていうんよ。人を差別したり、差別されたりっていうのは部落差別っていうの。差別行為は。

うちのばあちゃんが差別によって学校に行け

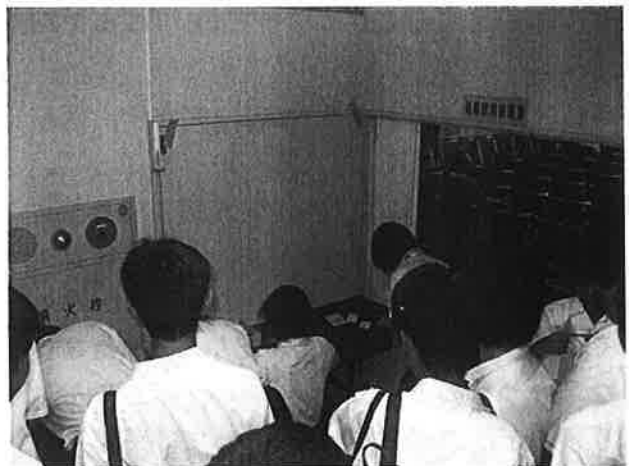
れんかって、読み書きできへん。この現実も部落差別の現実。これがね、社会問題としての部落問題よ。教育を奪われたっていうの。非識字っていうの。これをね、部落問題っていうの。問題と差別は違うからな。社会問題なんよ。日本国憲法でな、どんな人でも教育保障されなあかんて。あなたの中に差別意識があろうとなかろうと関係ないって。日本国民が教育を保障されてないやから、何とかせなあかんて。そのために子どもとして何が出来る？教師として何が出来る？行政として何せなあかん？これが社会問題なんよ。単なる差別じゃなくて、社会問題って何だ？差別っていうのは単に面と向かって、する、される、だけじゃなくって、もっと自分たちの暮らしの中に入っとったわけよ。ここに気づけたときにな、いろんなことがつながったんよ。

何でうちの地域、ヤンキーの兄ちゃん姉ちゃん多かったん。みんな想像してみ、部落の子たち。今はだいたい落ち着いてきたけど、自分らちょっと前ぐらいの兄ちゃん姉ちゃん、やんちゃが多かったん違う？うちもそうやったよ。部落は怖いって言われても仕方ないぐらい、やんちゃの兄ちゃん姉ちゃん多かった。不良が。あれね、好きで不良してるわけ違うよ。荒れざるを得ん家庭背景があったんやんか。父ちゃん母ちゃん夫婦げんか絶えんかった。家庭グチャグチャやった。何で夫婦げんか絶えんかったん。家庭グチャグチャやったん。金がないけんよ。金がなくなったら夫婦げんか始まるんよ。金ないのに父ちゃんパチンコ行く。酒飲みに行きよる。で、母ちゃんと大喧嘩。

なんで父ちゃん金なかったん？安定した仕事につけれんかったけんやろ。部落の中で、何人、ネクタイ締めて仕事行く？何人、教師がおる？何人、公務員がおる？就職差別やんか。安定した仕事に就けれんかった。なんで安定した仕事に就けれんかったん。学歴がなかったけんよ。うちの親父50代よ。今57才なんよ。当時、部落の子、同級生15人おったんよ。高校行っ

たのたった3人やから。うちの親父の下から、さっき言った奨学金ができて、高校行けるようになったけど。うちの親父50代。15人中3人が高校行ったの。高校なんて行けれんかったって。ハナから、行く気なかったって。金なかったけん。家が貧乏で。分かる？なんでうちの地域、母子家庭多かったん？すぐ別れて帰ってくるって。その母ちゃん自身も、家庭グチャグチャしとって、両親揃ってずっと育った経験なかったって。どう自分の子ども愛していいか分からんかったって。どいういう夫婦生活していいか分からんかったって。いろんなことでトラブって帰ってくるって。なんでオレ、部落外の人間、信用できんかったん？どうせオレなんかなんぼ頑張っても、どうせ差別されるんやろ。なんで悶々として荒れとったん。これも部落差別部やったんやて。

差別なんかされたことないって思いよったんよ。違うかった。差別が何か見抜けてなかっただけ。だからみんなには、この人権学習を通してね、自分自身のいろんなおかれてる環境、自分だけの責任じゃないこと、いっぱいある。それがおかしい差別の原因なんやったら、そこをなくしていかな。次の時代に同じこと繰り返すから。だからみんなでこの学習、しっかりしてな、差別を見抜く力をつけてほしいと思うの。そこに負けたらあかんてこと。



差別があることで不幸になってるのは？

そしてね、今日最後にな、結婚差別の話をする

る。恐らくみんなが直面する最後の大きな壁は、結婚やと思うんよ。結婚差別はね、今でも厳しい現実はあるけども、乗り越えてる青年、先輩たちがいっぱいおるから。その乗り越えた先輩たちっていうのはね、こういう学習をしてる先輩たち。同和教育受けてる。もっと言うと、オレらの親の世代とみんなが違うのはな、親の世代も結婚差別はあったんよ。あったけども、今と違うのは何か？今の青年たちやオレらはね、結婚差別を仲間が受けとったらね、仲間がおるんよ。その子を支える先生や、市役所の人や、オレらみたいな仲間がおる。一人で闘わんでもいい。だからいろんな知恵と色々なネットワークと人脈使って、解決に向けて動けるよ。

でも昔の人はな、一人で闘わなあかんかった。こんな仲間がおらんかったから。語り合える。そう言う意味では、みんなしっかり学習することで乗り越えられる。仲間がおりゃな。その前提で話すね。その中で、最近オレすごく思うことがあるの。それが何かっていうと、こんな訳の分からん部落差別みたいな残しとって、不幸になってるのって一体誰やねんと。差別があることでね、不幸になってるのって一体誰やねんて。オレ最近、このことすごく考えるの。何でこんなこというかっていうとな、多くの中学生とか高校生がね、差別っていうのは、差別をされとる人らが不幸になつとると思ひよるんよ。じゃけん正直、うち部落じゃなくて良かったって。この勉強したあと。うち正直、障害者じゃなくて良かったと思うとるんよ。じゃあ何でこんな勉強しよるんかっていったら、その部落の人や障害者やそういう人のためにやってあげてみたい。もちろん間違いじゃないけども、差別は差別されとる人が不幸になつとってよ、その人のために考えてあげてる、みたいなスタンスやったら、これな、いつまでたっても他人ごと、所詮は。

今日みたいな時間は、勉強する。この時間が終わったら、もうおしまい。なんで部落出身じゃない自分が、この部落の勉強をした方がいい

の？何で健常者の自分が障害者差別の勉強した方がいいの？何で男のオレが女性差別の勉強した方がいいの？結論から言うね。今日一番大事な話ね。聞いといてね。差別は、される側を不幸にしてるんじゃないんよ。そりゃね、差別を受けて悲しい思い、悔しい思い、人間不信になる、自暴自棄になる、ボロボロに傷つくよ。傷はつくけども、その気持ちで死ぬまで、一生は終わらん。その傷ってね、必ず、出会いと学びによって癒えるから。受けた傷の深さの分だけ、時間かかるんよ。でもその傷が癒えたときに、その人は一回りも二回りも大きな人間になつとるけん。自分がいじめられて、苦しい思い、悲しい思いした分だけ、人には温かくなれるよ。人の値うちって何なん？学歴なん？肩書きなん？家柄なん？何なん？いろんなことを考えさせてもらえる。そう言う意味では、差別を受けて傷つくことはある。でもそれをバネにしたときに、その人の人生は決して不幸じゃない。障害はね、不便なことだけでも、不幸ではない。これはヘレン・ケラーの言葉ね。同じなんよ。

差別は、その時の自分のストレスのはけ口やったりさ、相手より優位に立ちたいとか、差別される側になりたくないからやってるんやけど、差別はね、最後の最後、する側を不幸にしていつてるよ。訳の分からん差別意識、世間体、周囲の目、いろんなものにがんじがらめに縛られて、自分で自分を不自由にしてるから。だから、みんなにはな、そんな生き方をしてほしくないし、そんな自分の醜い差別意識と向き合っ、解放されてほしいわけよ、そこから。だから、自分のために勉強してほしいの。

このことにね、オレが気づかされたのが、オレ自身の恋愛なんよ。大学時代に付きあってる彼女がおったんよ。彼女は岡山県出身の女の子やった。大学で大阪に来て、オレとの出会いが、初めての部落との出会いやった。付き合っ、1年ぐらいて、大学2年生の春。彼女の両親が仕事で大阪に来とったんよ。飯でも食うかつ

て話になって、その日初めて彼女の両親と会ったわけ。まあお互い最初は緊張しとったけどね、お酒も入って話し始めると、父ちゃんがめっちゃ気に入ってくれたんよ、オレのこと。会話の途中、父ちゃんがね、

「川口くん、ところで大学行って部活とがクラブしよるんか？」

「はい、やってますよ。」

「何やりよるんぞ。」

「部落解放研究会。」

「部落解放研究会。」って、人権サークルね。部落解放研究会って言った瞬間、父ちゃん、0.03秒、一瞬パッと間があいたんよ。

「何でそんなんやってんの？」



もう隠さんと言ったわけ。「ボクは愛媛の宇和島の部落出身で…」って、もう全部話したんよ。それを聞いた父ちゃんね、さりげなく、しかも露骨に態度変えた。分かる？父ちゃん、オレが部落出身って分かって、明らかに動揺しとるんよ。嫌な顔しとるけど、その動揺をね、オレにバレんようにバレんように隠しとるけども、態度がバレバレ。オレが話し終わると同時ぐらいに、パッと時計見て、「ごめん、オレちょっと仕事残つとるけん、先帰つとく。」バンと席立って店出て行ったんよ。ビックリしたよ。隣にいた母ちゃんあわててしもうてさ、一気に雰囲気悪くなったから、オレに気遣って話そらすんよ。もう分かつとるやん。店出ようって店出て、彼女のアパートに送っていったら、お父さん待つとったん。家帰って、帰って彼女に説

教。

「おい、お前ちょっと来い。お前あいつが同和の人間で知つとったんか。何で言わなかったんぞ。そんなん知つとったら飯食うわけないやろうが。お前、あんなやつと付き合うために大学行かしたん違うぞ。もうあいつとは別れろ。」

「何言ってるの、お父さん。アンタ、彼が部落って言うまで、いい子やいい子や言うとったやないか。おかしいん違うんか。」

大喧嘩。彼女も言うこときかんよ、そんなもん。そのまま父ちゃんとケンカ別れや。父ちゃんは実家に帰ったわけ。実家に帰って、そのことを実家のじいちゃんに報告。もう、このじいちゃんがコテコテなわけよ。分かる？コテコテって。孫が恋愛してるだけやぞ。結婚じゃないんよ。それだけでも孫のためや思うて必死。正月帰っても親族会議じゃないけどな、親戚みんなからな、「もう別れたんか、別れたんか。」って、もうずっとケンカよ。その半年後、このじいちゃんは元々体調が悪かったんやけど、最後にもう体調崩して入院した。じいちゃん倒れて入院してね。親父、すつとんできたよ。彼女のどこ。

「お前、じいちゃん殺す気か。お前がな、同和のものと付き合いよるけん、じいちゃん倒れたんやろうが。今から病院行くぞ。謝りに行ってこい。見舞いぐらい行ってこんか。」

「何でうちが謝らなあかんの。おかしいの、じいちゃんやろ。そんなん絶対頭なんか下げれん。見舞いなんか絶対に行かんよ。」って突っ張った。突っ張ったのはいいけど、それは心配やて。親父が帰ったあとと言うんよ。

「やっちゃん、うちが悪いんか。うちがあんた好きになったこと頭下げなあかんことなんか？」

「いや、間違うとらん。頭下げんでいい。」

最後2年間、彼女は誰よりもじいちゃんを心配しとったんよ。でも病院行かんかったんや。

「頭下げれんて、会ってないの。このじいちゃんが、その2年後に亡くなるの。たまたまオレ

の部屋におるときに、彼女のケータイにその電話があったんよ。

もうな、じいちゃん死んだ知らせ聞いて、泣き崩れたよ。やっぱりそれでも好きやったじいちゃんや。ケータイ切ったあともな、ケータイずっと握ったまま、肩落としてボロボロ泣きよるんよ。声かけれんかった。30分、1時間泣き崩れて、ようやくちょっと落ち着いてな、パッと顔あげた。顔あげて、オレと目があった。その瞬間、彼女がこう言うたんよ。じいちゃん死んで悲しいんぞ。目真っ赤にしてボロボロ、ボロボロ泣きながらね、ニコッと微笑んで、「良かった。これで一人、差別者減ったね。」って。もうね、オレその言葉聞いてたまらんようになったんよ。

「お前、何でじいちゃん死んだとき、素直に悲しいって言えれんの。もう氣遣うなよ。そりゃ腹立つよ。オレのこと部落やって差別するじいちゃんに腹立つって。でも、大好きやったじいちゃんやろ。」

「分かってるよ。そなん、あんたに言われんでも、うちが一番辛い。最後顔見てないんよ。悲しい。でもね、その悲しいって気持ちと同じぐらい、自分の中には、もうこれで良かったって、もうこれでややこしく言う人一人減ったって、素直に悲しいって泣けれんのよ。」

オレね、このとき痛感したんや。ああ、部落差別を残しとくことでな、不幸になってるのはオレじゃないって。せやろ？そりゃオレ、四年間、相手の親に反対されて、差別されて悔しい思いした。傷はついた。でもオレ、不幸じゃなかったよ。何で？うちの父ちゃん、母ちゃん、誰が反対したん。みんな応援してくれたよ。オレには、仲間がいっぱいおったわ。でも彼女は、誰から反対されとん。我が身内なんよ。身内とケンカすることほどしんどいことないの。その他の日常生活に全部響くから。

大好きやったじいちゃんが死んだときに、彼女に素直に「悲しい。」って言えなくさせてるのが、部落差別よ。彼女もまた差別の被害者。

たぶん、オレよりしんどいよ。板挟みやから。本当の意味で不幸なんて誰なん？オレは、じいちゃんと思う。孫って可愛いてしゃあないやろ。その可愛いてしゃあない孫が、最後、顔も見れんと、口もきけれんと、死んだときに「良かった。」って。じいちゃん、アンタが、そんな訳の分からん差別意識みたいなものに、がんじがらめに縛られとるけん、この孫を傷つけたんよ。この傷は一生消えん。

ここを分かかってほしいんよな。差別意識みたいなものに縛られ、正しいこと知らんかったらね、自分らで不自由になつとるて。だからもうこんな差別残したらあかんてことよ。いい？

ピーカーの底に沈殿した泥

そしてね、もうこれで終わる。最後。こんな同和教育するけん、かえって知らん子たちまで余計知るん違うん。そう思わん？こんな勉強せんかったら知らんかったんやから、部落のこととか。教えんかったらそのうちなくなるん違うん。この意見をね、「寝た子を起こすな」っていうの。必ず言われるから、みんな、切り返し方覚えとけよ。「こんな勉強するけんなくならんよ。みんなしてしまうんや。寝た子を起こすな。」て。

これに対して、オレはこう切り返してるんよ。「あのね、何で同和教育するの。」って、みんな、ここにコップがあると思って。このコップに泥水入れて。この泥水の泥、これがオレらの中に刷り込まれとるいろんな差別意識よ。例えばね、自分より、下を下を探してホッとしてる自分おらんか？数学のテスト返してもろうた。42点。めっちゃ悪いやん。思うた瞬間どうする？ちょっと数学苦手なやつ見つけて、「お前なんぼ？38。あつ、こいつよりマシ。」とか、ない？そういうの。自分より下を下を求めてホッとする自分とか。男子に聞きたいけどね、スポーツテストとかでね、体力テストで女子に負けたら悔しいとか思わん？「うわっ、オレ、女に負けた。」とか。これ、男尊女卑。男の方が

一段上って刷り込まれとる意識や。そういった自分では気づかんけど、いろんな差別意識。

はい、この泥水何もせんとな、ポンと置いとこうや。どうなる？泥水の泥がね、下に沈殿するよ。上から見たら綺麗な水。「私、差別なんかしてません。差別なんかもうされてません。この町に部落差別とかないです。同和教育、人権教育って何？」このビーカーの水、混ぜる作業よ。こうやって。ちょっとずつでいいよ。混ぜ続けてみ。やがてどうなる？対流が起こって、下の泥がフワッって浮き上がる。学べば学ぶほど、差別が何か見抜けるようになるから。差別なんかしてないと思ってたけど、いっぱいしとったって。差別なんかないと思ってたけど、いっぱいあったって。そんな自分じゃ嫌や。ちょっとは美しくしたい。それを金魚すくいの網ですくい続けるの。人や組織ってすぐには変わらない。ちょっとずつでいいよ。やがては純粋で綺麗な水になる。

やらなかったら沈殿してるだけ。普段は綺麗な水なんよ。いつ起こるん？我が身に降りかかったとき。身内の結婚とかな。今、問題になってるのは、部落のある学校とない学校、校区一緒にしようとしてるとき、もめてるわけ。一緒にしてくれるなって。市町村、部落のある町と、部落のない町が合併しようとして、今、愛媛県でもめとる。部落のとこと一緒になりたくないって。同和教育せなあかんからって。そういう利害が絡むとき。それか、自分の中に、ストレスがいっぱい溜まったときにドーンて起こるんよ。それを差別事件で言ってるの。そんな時はもう遅い。お互いが不幸になってる。だから今のうちに、取って取って取り除こうや。自分のためにとってことよ。ちょっと、だいたいオーバーしたんやけども、ボクの講演はとりあえずここで終わろうと思います。最後まで一生懸命に聞いてくれてありがとうございました。

司会者 川口さん、講演ありがとうございました。それでは残りの時間、講演の感想や質問、

意見交換を行っていきたいと思います。マイク係として、大麻中学校3年のcさん、吉野中学校2年のdさん、大麻中学校3年のeの3人がフロアをまわります。記録の関係上、発表者は団体名、学年、名前を言ってから発表してください。それではよろしくお願ひします。



応神中学校 f 応神中学校のfです。質問いいですか。講演ありがとうございました。聞きたいんですけど、学校とかで人権の学習、嫌やなって子、結構多いじゃないですか。僕のクラス、22人・22人で、2つにわかれているんですけど、たまに44人全員で話する時があるんです。そんな中で、大多数の子がしんどいなって寝よったり、ちゃんと聞いている人でも上辺だけで言うたりする子の中で、4・5人がちゃんと話しているんです。そんな中で44人、ほとんどの人が真剣に自分を出し合って話し合いをしていくためには、どうしたらいいんですか。

川口さん 何でみんなだるいなあって思っているか、自分の考えはある？

応神中学校 f マイナスイメージばかり聞いて、プラスのイメージがないから思ってるのではないかなと。

川口さん そっか、授業が面白くないと言うか

何か、人権の。それは一つ、学校の先生が授業を面白くしないといけないね。部落問題の授業、人権の授業ね。子どもの責任じゃなく、教師の責任。同時にみんなもそうやと思うけど、多くの子はたぶん、まさか自分のクラスに部落の子がおるとは思っていないんじゃないかな。そやろ。だから遠くの話とってるよ。だから、部落問題、解決するために一番有効な方法、教えたろか。カミングアウトすること。オレがそうやで。「オレら、こんな学習してきてるよ。オレの親こんなんやったよ。」って言ったら、「自分の連れ、友達、身近な人がこんな思いしとったん。」って身近に感じるじゃん。「じゃあ学ばなきゃいけない。」って。一番手っ取り早いのは自分がカミングアウトすることやと思う。一緒に考えてほしいって。そのために先生も頑張ってくれて。勇気はあるけれど、そこからしか始まらないよね。いつまでたっても遠くの話、県外の話と思われるよりも、「オレもわからないけれど、一緒に勉強しよう。将来差別とたたかう仲間になってほしい。」って。それが一番の近道かと思うね。

応神中学校 f ありがとうございます。



大麻中学校 g 大麻中の g です。質問と感想になるけど、自分は実際差別をしている側になると思うんです。太い子見たら、めっちゃ太いとか思う派で、後から友達よんでデブとか

言ってしまうんです。こういう会に来て学んでるのに、そういうことを言ってしまう自分がおるんです。それって、どないしたらいいと思いますか。

川口さん ついつい言っちゃうんだ。あかん、と思っても、言っちゃう自分がおるんやね。どうしたら直っていくかやな。その太っている子と仲良くなってみた？話はする。じゃあ、その子前にしても、やっぱり言う。太っている子とやせている子で、人間の値打ちは関係ないやん。健康に悪いからやせた方がいいというのはあるけどね。でも、それはその子のキャラやんか。そのことでその子の価値が低いとかいう見方は変やね。自分でもわかっているけど、思ってしまうんだよね。どうしたら直るのかなあ。まず、その子と触れ合ってみたり、その子のキャラを知っていくことで変わってくるんじゃないかな。

大麻中学校 g その子と仲いいんですけど、何て言うんか、太い子なら太いというんか、何か。自分の祖父ちゃんが障害者なんですよ。ほんで、今病院で入院してるんですけど。いつも母さんが祖父ちゃんの病院に行って、介護みたいなのをしているんですよ。自分はそれをいつも見て、何もできんのが悔しいし。どうすることもできへんで。そういう自分がずっとここにいるんで、それを解決したいんやけど、この会に来てても、自分があまり発表しないから、聞けないし言えないし。話はごっちゃになったんですけど、この会に来て好きな祖父ちゃんと、やっぱりもっと触れ合いたいけど、障害者だからそういうこともできないんで。川口さんの話に絡めて、アドバイスを聞きたいんですけど。お願いします。

川口さん お祖父ちゃんが障害があって、今入院してて、それに自分が何もできんて。何かしたいけど、何かできんかって。それよりも

今、この場で言ってくれてありがとう。いっぱい向き合ってるんよね、自分と。友達にデブとか言ってしまう自分とか、じいちゃんのことでもできん自分とか、この会に来て変わろうと思ってるのになかなか変わりきれない自分とかと向き合ってるんよね。でも、今一步踏み出したと思うよ。仲間の前でそのことを語って、どうしようかって。答えはないんよ。答えはないけん、一生懸命自分が見つけていくしかない。そのために一緒に考えていくんやと思うんよな。仲間とその思いを共有して。まずは自分がしっかり立つことやと思う。じいちゃんの手伝いとか、母ちゃんの手伝いとか大事やけど、まず自分が受験のことや学校のことやあるやろ。娘は今大丈夫やと。うちがおらんでも、ちゃんと家のことやってくれているとか。ちゃんと勉強も頑張ってくれてるとか。そうしたら母ちゃん、安心して介護もできると思うんよな。まずは、自分がしっかり立つこと。今はな。それが一番のサポートになると思うよ。



北島中学校 h 北島中学校の h です。質問になるんですけど。学校で廊下とかを歩いたりすると、よくたまに悪口とか聞こえてきて、それがずっと昔からなんで。それで、言いたくても何も言えんし、自分の殻が破れるんですけど、どうやったら破れる、簡単に意見を言えるようになるんですか。

川口さん 廊下歩いてたら友達から露骨に悪口

が聞こえてきたりとか、そうやってされてて、どうやったらそんなの跳ね返せる生き方ができるのかっていう質問やね。オレは、まずね、そうじゃない友達、仲間が増えた時に自分が変わっていったんよ。友達も来てくれてるやんか。その仲間が、うちはあんたの味方やで、うちもおかしいと思うよ、そういう仲間が2人3人で増えていった時に、オレは頑張ろうと思えたし、負けへんと思えたし。だから、そういう仲間をつくるために今日来たと思うし。そうやって勇気を出して自分のことを語って仲間とつながっていく。そうしていくだけでも大分違うと思うんよな。言うやつは言うから。でも、うちの後ろにいっぱい味方がおると思えると変わってくるよね。しんどい時に「しんどいね。」って話せる仲間をつかっていくことが大きいよね。もう言うやつはしゃあないで。そんな醜い生き方しかできへんねん。「あの子ああよね。」って言ってる顔、見てごらん。めっちゃ醜いやん。なんぼべっぴんな子でもな。じゃから、ニコニコしとったらいいんと違うん。「あんた、そんな生き方しかできんの。かわいそうね。」って。

仲間が今、自分の10万円の話をしてくれよるやんか。そこに思いを重ねて返していったらいいかなって思う。一步踏みだそうや、みんな。一步踏み出すと、違うものがみえるからな。「言いたいな。」って思ってる子、いっぱいおると思うし。

大麻中学校 i 大麻中学校3年の i です。感想を言います。川口さんの話を聞いてたら、やっぱりだいたい講師さんだったら、聞きよっても眠たくなるというか、あるんですけど。川口さんの話を聞きよったら、いろいろ波瀾万丈みたいな感じで、聞きよったらためになることばかりやったし、聞きよっても、「なるほどなあ。」と思うことばかりやったし。なんか、一番グツときたのが、「ばあちゃん、オレが読んだろか。」で、や

っぱり、昔って学校に行きたくても行けない、家の手伝いとかあって。今ではなかなか考えれんけど。買い物行っても1000円ぐらいで済む買い物を1万札出して。オレも学校で識字学級とか学んで、育友会とかでも学んで、差別っていろいろ種類があって、何て言うんだろう。差別って怖いって言うか、何で差別ってあるんだろうっていつも思います。特に部落差別が意味がわからん。訳がわからんと言ったらおかしいですけど、今はそんな差別はないけど、昔は厳しかって、ほんまに大変だったんだろうなと思うんです。結論で言うたら、どないかして、自分一人の力ではなくしていけんで、みんなでなくしていきたいという気持ちがあります。前、川口さんが大麻中に来てくれていて、話を聞くのは2回目なんですけど、川口さんの話が2回も聞けたけん、何かうれしかったです。ありがとうございました。

川口さん 今、いっぱいしゃべってくれたよな。何言うてるかわからんようになってもかんまんよ。言いたいこと、言ったらいいと思うで。勇気出して手を挙げてみることやんかな。

応神中学校 f 応神中学校3年のfです。さっき、太い子に対してデブと言ってしまう自分について言ってたんですけど、まあ見た感じ、僕もそうとうメタボリックな感じで。結構デブデブ言われることも多いんですよ。部活とかで、「お前太り過ぎよ。」とか、「太ってうれしんか。」とか言われる訳ですよ。自分としても嫌なんですけど、面と向かって太いぞとかデブとか言う分に関しては、僕はあんまり傷つかんけど、裏で「あいつ太いよな。」とか、「面積でかいよな。」とか言われる方が傷つくんで、表面上で言う分に関しては傷つかんと思いますよ。

川口さん いやあ、面白いね。そうよね。変に

同情されるのが嫌よね。いじってくれる方が逆にいいよね。「オレのキャラや。」ってね。

司会者 他にありませんか。あと、ラスト3人で。



名和中学校 j 質問してもいいですか。名和中学校のjと言います。最初の方にも話をしていた子がいたんですけど、人権学習すると面倒くさいとか言う人がいるじゃないですか。それ以外の人でも、学習会やってる人の中でも、やっぱやる気のない人とか、そういう人がいるんですよ。そういう人をやっぱ放っといた方がいいんですか、それとも無理してでも仲間っていうふうにした方がいいんですか。

川口さん はいはい、嫌々来てる子がおるわけやね。来ても、「だるいわ。」って勉強、人権学習せん子、おるわけやね。その子どうしたらいいかってわけやね。どうしたい？自分は。もう放っとく？

名和中学校 j 自分だったら、やる気がないのだったらやめてほしい。

川口さん どう？みんな、今の意見聞いて。たぶん、同じような経験をしている人、いっぱいおると思うんよ。答えはいっぱいあるからさ、みんなの思いも聞きたいよな、逆に。何

で学習会に来て、一緒に学んでいるんかよな。
どう？みんな、今。

大麻中学校 e 大麻中学校3年のeです。今の質問で、やる気がなかったらやめてほしいって言ってたけど、無理矢理来らされてる子もあると思うけど、仲間はおって損することは絶対はないと思うけん、その子らの気持ちとか変えていけるように、私だったらしたいと思います。

川口さん はい、ありがとう。どう？今の。「その子の気持ち変えていきたい。仲間だし。」って。「放っとけれんもんね。」って。



吉野中学校 k 吉野中学校のkです。僕も人権学習の時に、最初はマイナスのイメージが強くて、あんまり面白くなかったんで、やる気がなかったり、たまに寝てたりしたんですけど、途中で渋染一揆っていうのをやって、その人たちの闘いを見るうちに、マイナスやけどそれに打ち勝とうとしている人たちの闘いを見よって、人権学習ってそういう人たちの残してくれた記録っていうのを実際に感じられる。面白い、面白いっていうのではないかもしれないけど、学習やなどと思って。そこから人権や総合を真面目にやるようになったんで、たぶん、やる気がない人たちも、何かきっかけがあれば、真面目に取り組めるようになると思います。

司会者 まだまだ発表はあると思いますが、このあたりで全体会午前の部を終わりたいと思います。最後に川口さんに、もう一度拍手をお願いします。

さて、この後、昼食・休憩となります。お弁当を注文された団体は、お弁当の引き替えを行いますので、代表の方は1階の受付へお越しください。なお、基本的にお弁当はこの場所で食べてください。また、まだ名札をつけていない方は、名前がわからないので、この後、全体会場の後ろでつくり、必ずつけておいてください。それでは、お互いに交流しながら食事をし、お昼のひとときをお過ごしください。なお、午後の部の開始時刻は13時です。遅れないように、元の場所に集合してください。よろしくをお願いします。それでは、いったん解散してください。

